

肥後医育振興会に期待する

肥後医育振興会への期待

熊本大学 学長 小川久雄



徳島県出身、徳島県立富岡西高等学校卒業後、医師を目指して熊本大学医学部へ。一九七八年熊本大学医学部卒業。一九八四年から三十一年に渡り、医員、助手、講師、助教授、教授として熊本大学に奉職した。二〇一六年より国立循環器病研究センター理事長を務める。二〇二一年四月第十四代熊本大学学長に就任。

熊本大学第十四代学長として就任いたしました小川久雄でございます。私は昭和五十三年（一九七八年）に熊本大学を卒業し、熊本大学、天草、大阪八代と様々な地で勤務いたしました。一番長く勤務させていただいたのが、

熊本大学で三十一年間勤めました。そして最近五年間は大阪の国立循環器病研究センターの理事長として、熊本を離れ外から母校熊本大学を見てまいりました。二〇一六年の熊本地震、二〇二〇年の熊本豪雨災害、さらには新型コロナウイルス感染症拡大と多難な時期でした。医学部は一七五六年（宝暦六年）細川藩の再春館以来二百六十五年、一八九六年（明治二十九年）創設の私立熊本医学校から百二十五年の長い歴史と伝統を誇ります。母校が更に発展するために、全力を尽くしたいと思っております。

開催の「肥後医育塾」の開催などで県民に対して医療啓発活動を行っております。この度、「肥後医育振興会への期待」というテーマで寄稿を依頼されましたので、私の考えを述べさせていただきます。肥後医育振興会は公益財団法人であり、大学運営に対しての財政的な御支援、また社会的貢献を期待させていただきます。

私が三月まで勤務しました国立循環器病研究センターは大阪の吹田市にある北大阪健康医療都市（健都）に新築移転いたしました。私は創立五年目から三年間レジデントとして勤務し、今回移転という五十年に一度の大事業に関わらせて頂きました。近くには国立循環器病研究センター名誉総長が理事長を勤めておられる公益財団法人の「循環器病研究振興財団」があります。この財団は三十四年の歴史があり、以前はセンター内にありましたが、現在はセンター外にあります。主な事業は研究助成や循環器病の予防・診断・治療の普及向上を図るための啓発活動などです。その予算規模は企業や一般からの寄付によるところもありますが、公募研究助成のみで年間千八百万円の予算規模で研究費が助成されております。寄付の範囲も医療関係以外に広く依頼し、テレビ局と一緒に循環器病チャリティゴルフ大会を企画、一回に百四十人近い参加者でチャリティー収益金を得て、心臓病患者の治療支援に寄付されております。このような事業は同じ公益財団法人である「肥後医育振興会」の活動の参考になるのではないかと思います。さらに交流の場を増やされることにより「肥後医育振興会」が益々発展されることを期待しております。

